

ようやく春の訪れです。気になりだすのが赤ちゃんの肌です。お母さん方は少しでも肌に赤い斑点を見つけるとアトピーではないかと小児科医に駆け込んで来られます。

アレルギー疾患は、アレルギーマーチと表現されるように年齢とともに病像や症状が変化していきます。乳児にみられるアレルギー反応は、ほとんどが卵・牛乳・大豆などの食物アレルギーによるものです。これらのアレルギーの診断にとって最も大切なのは、詳細な病歴聴取と理学所見であり、種々の検査はアレルギーの確定、疾患とその程度の把握、またアレルギー反応の型を診断するのに行うものです。

よく相談を受けるのは、お母さんが母乳を与えているときに生じた皮疹です。皮疹の程度が軽いとそのまま授乳を続けていただきますが、重症の場合には一時的に疑わしい食物の摂取を1〜2週間完全除去し、症状の改善を観察します。多くの場合には、お母さんのかたよった、過量の食物摂取のないようにするだけで母乳を続けていただきます。過度の摂取制限で栄養不良となり小児科に入院して来られるケースが結構ありますので注意が必要です。

妊娠中の栄養でも同じことがいえます。胎児の場合には、さらに胎盤で守られていますので、胎児に移行する食物アレルギーは問題にならないと最近では考えられています。

春になると、スギ花粉が飛散しています。幸い乳幼児ではスギ花粉をアレルギーとして発症することは極めて稀です。小児のアレルギー対策として最も大切なことは、バランスのとれた食事、部屋の掃除、寝具類の管理など整えられた生活環境で育児をすることでしょう。